

## 地域医療構想ガイドライン策定に関する意見

公益社団法人日本精神科病院協会  
政策委員会委員長 櫻木章司

「地域医療構想」は、一般病床・療養病床を対象とした報告制度の議論に端を発したものであるが、下記を踏まえ、ガイドラインの総論において、精神科医療についての記載を提案する。

### 記

精神疾患は、その重要性から、医療計画における5疾病の一つとして位置づけられ、現行の各都道府県の医療計画においては、精神科医療についても記載されている。各都道府県は、医療計画を定めることにより精神疾患を含む地域の医療提供体制の確保を図ることとなっており、また、地域医療ビジョンは精神疾患を含む医療計画の一部であることを踏まえ、各都道府県は、地域における精神科医療も含め地域医療ビジョンを検討することが必要である。

精神科医療が地域医療の重要な一要素であり、一般医療と密接不可分であることの例を挙げれば、以下の通りである。

- ・ 薬物療法や心理・社会的療法の進展により、統合失調症の患者の地域移行が進んでいる。しかし、次第に高年齢化が進み、また生活習慣についての援助を多く必要とすることから、身体疾患とりわけ生活習慣病の罹患率が高くなっている。この点において、一般医療との連携が重要である。
- ・ 身体疾患の治療を一般医療で受けている高齢者等のうち、認知症を発症している人に関しては、精神科医療の関与を要すること。
- ・ 認知症治療のうちでも、その行動・心理症状（いわゆるBPSD）については、特に精神科医療の関与が必要であること

- ・ 認知症をはじめ、うつ病、ストレス関連障害、依存症等精神疾患を持つ患者の地域生活を支えるための医療が、一般医療と精神科医療の協働と社会資源の共有を前提に、求められていること
- ・ 自殺対策を含むうつ病対策の強化が求められている中、うつ病においては、その多くがまず睡眠障害や食欲低下等の身体症状を訴えて、一般医療を受診することが多く、一般医療と精神科医療の連携が重要であること
- ・ アルコール、危険ドラッグを含む薬物依存対策、またうつ病、うつ状態における自殺対策においては、救急医療と精神科医療の連携強化が必要であること
- ・ 脳梗塞等の脳血管障害や頭部外傷等による高次脳機能障害等について、精神科医療を含む適切な医療提供体制の確立が求められていること
- ・ 摂食障害については、その心理・社会的要因が発症、経過に強く関係していることから、精神科医療が治療的に関与しているが、極度の脱水症状等の身体合併症があり、生命の危険を伴う場合があることから、摂食障害の身体合併症の治療や栄養管理等を一般医療と協働して行う必要があること
- ・ 災害時の医療として、DPAT の活動をはじめとする精神科医療の役割がますます重要になってきていること
- ・ ストレス関連障害等の心因性精神障害にあって、多彩な身体症状を呈する場合においては、一般医療と精神科医療が協働して、多角的で適切な医療提供体制が求められていること

以上

## 地域医療構想ガイドライン策定に関する意見

公益社団法人日本精神科病院協会  
政策委員会委員長 櫻木章司

「地域医療構想」は、一般病床・療養病床を対象とした報告制度の議論に端を発したものであるが、下記を踏まえ、ガイドラインの総論において、精神科医療についての記載を提案する。

### 記

精神疾患は、その重要性から、医療計画における5疾病の一つとして位置づけられ、現行の各都道府県の医療計画においては、精神科医療についても記載されている。各都道府県は、医療計画を定めることにより精神疾患を含む地域の医療提供体制の確保を図ることとなっており、また、地域医療ビジョンは精神疾患を含む医療計画の一部であることを踏まえ、各都道府県は、地域における精神科医療も含め地域医療ビジョンを検討することが必要である。

精神科医療が地域医療の重要な一要素であり、一般医療と密接不可分であることの例を挙げれば、以下の通りである。

- ・ 薬物療法や心理・社会的療法の進展により、統合失調症の患者の地域移行が進んでいる。しかし、次第に高年齢化が進み、また生活習慣についての援助を多く必要とすることから、身体疾患とりわけ生活習慣病の罹患率が高くなっている。この点において、一般医療との連携が重要である。
- ・ 身体疾患の治療を一般医療で受けている高齢者等のうち、認知症を発症している人に関しては、精神科医療の関与を要すること。
- ・ 認知症治療のうちでも、その行動・心理症状（いわゆるBPSD）については、特に精神科医療の関与が必要であること

- ・ 認知症をはじめ、うつ病、ストレス関連障害、依存症等精神疾患を持つ患者の地域生活を支えるための医療が、一般医療と精神科医療の協働と社会資源の共有を前提に、求められていること
- ・ 自殺対策を含むうつ病対策の強化が求められている中、うつ病においては、その多くがまず睡眠障害や食欲低下等の身体症状を訴えて、一般医療を受診することが多く、一般医療と精神科医療の連携が重要であること
- ・ アルコール、危険ドラッグを含む薬物依存対策、またうつ病、うつ状態における自殺対策においては、救急医療と精神科医療の連携強化が必要であること
- ・ 脳梗塞等の脳血管障害や頭部外傷等による高次脳機能障害等について、精神科医療を含む適切な医療提供体制の確立が求められていること
- ・ 摂食障害については、その心理・社会的要因が発症、経過に強く関係していることから、精神科医療が治療的に関与しているが、極度の脱水症状等の身体合併症があり、生命の危険を伴う場合があることから、摂食障害の身体合併症の治療や栄養管理等を一般医療と協働して行う必要があること
- ・ 災害時の医療として、DPAT の活動をはじめとする精神科医療の役割がますます重要になってきていること
- ・ ストレス関連障害等の心因性精神障害にあって、多彩な身体症状を呈する場合においては、一般医療と精神科医療が協働して、多角的で適切な医療提供体制が求められていること

以上